

【報告】

カンボジア・スタディツアー報告

川島ゼミナール

目次

1. カンボジアの子ども達から学んだこと
2. 誰かを笑顔にできれば——カンボジアでのボランティアに参加して

1. カンボジアの子ども達から学んだこと

(文責：矢島 佑樹：政治行政学科2年生)

ボランティアというもの自体にとっても興味があった。しかし、時間もなく、自分から積極的に関わることはなかった。それでも何かしたいと思っていた。そんなふうを考えていたとき、ゼミでスタディツアーのことを紹介してもらった。教員になるという将来の夢を持っているので、言葉の通じない他国での教育に携わる事が出来るということにもとても魅力を感じた。初めてのことに多くチャレンジして、これからの自分の糧にできるような経験をたくさん積みたいたいと考えたのも参加した理由である。

カンボジアへ行って学んだこと、考えたことは主に三つある。

一つ目は、子ども達の一生懸命さである。この言葉を辞書で調べると、「命がけで物事をする事・全力をあげて何かをするさま」とある。まさにそのとおりだった。カンボジアの子ども達の物事に対して取り組む姿勢はすごい。例えば、折り紙を渡すと、取り合いになる。自分の分を確保するとすぐに折り始める。1時間ほど経っても同じ場所から離れずに集中して取り組んでいることに日本との違いを感じた。

二つ目は、学ぶ姿勢についてである。私は今大学で講義を受けて学んでいる

が、少しわからないことがあっても面倒くさかったり、恥ずかしかったりして聞きに行かないことがある。しかし、カンボジアの子ども達は何事に対しても学ぶ姿勢がすごく、何でも聞いてくる。カンボジアの地方の子ども達は英語がわからないことが多いので英語を学ぼうと私たちに質問してくる。わからないことがあると自分が納得するまで私たちに聞いてきた。学習意欲がとても高いと感じた。

三つ目は、貧しい人々への支援に興味を持ち始めたことである。カンボジアの子ども達と一緒にサッカーをした時、子ども達はみんな裸足で土の地面を走り回っていた。石や凹凸がある地面を裸足で走ったりすることは怪我につながるのを靴を履かせてあげたいと思った。本田圭佑選手がカンボジアのチームの監督となり、前々からサッカースクールを開設してサッカー用品を支給していることを以前から知っていたので、そういった活動を私もしたいと考えた。

アメリカやヨーロッパといった華やかな国へ旅行に行くのもいいが、発展途上国へ行くとどれだけ自分が不自由なく暮らせているかを感じることが出来る。ただそれだけではないと思う。見習いたいこともあったし、ボランティアを通じて関心を持ち続けたいと思うようにもなった。この旅行によっていろいろなことを学んだような気がする。

2. 誰かを笑顔にできれば—カンボジアでのボランティアに参加して

(文責：小山 慧人：政治行政学科2年生)

カンボジアの子供達に歯磨きの大切さを教え、一緒に遊びました。そのことで相手を笑顔にすることができました。子供たちの元気な姿や、一つの遊びに対して本気で楽しんでくれる純粋さから、ボランティアに来ているはずの私達が笑顔をもらい、とても充実したものとなりました。もちろん、全てのボランティアがこんなに楽しいものではないのかもしれませんが、これからもっといろいろなボランティアに参加し、困っている人を助け、誰かを笑顔にできればいいと思うことができました。

ただ、カンボジアという国を初めて訪れ、生活環境の厳しさを目の当たりにしたことも事実です。日本での当たり前は向こうでの当たり前ではありませんでした。例えば、水道水はどこでも錆びた匂いがし、子供達の服はボロボロで、靴を履いていない子も多かったです。

こういった生活環境は発展途上国ではとてもよくあることなのかもしれません。でもこれほどだとは思っていませんでした。逆に今は知らないだけで、日本よりずっと恵まれた社会もあるかもしれないと思いました。いろいろな国を訪れることで、そういった違いを見つけたいと思いました。その国ごとの環境や文化を知ること、多くの物事を考える機会になり、いろいろな日常的な視点から物事を考えられるようになると思いました。

最後に、積極的にコミュニケーションを取ることが大切だと知りました。カンボジアの子供達と関わり、言葉が通じなくてもコミュニケーションが取れることがわかりました。子供達は初対面の自分達にとっても積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれました。とても嬉しいことでした。立場の違う人であってもコミュニケーションを積極的に行う事で、相手に良い印象を与えられるのではないかと思います。言葉が通じない相手同士でも意思疎通ができるのなら、同じ言語ならば、立場や考えが違うもの同士でも、もっとうまくコミュニケーションをとれるはずだと思います。

海外でのボランティアを通じ、ボランティアの大切さ、国による生活環境の違い、人と積極的に関わることの大切さを知りました。また、自分の中になかった考えを持つことができ、とても素晴らしい6日間になりました。

参加ツアー名：「カンボジアの小学校で課外授業！子ども達と学び合う6日間」

主催：株式会社エイチ・アイ・エス

期間：2018年9月4日から9月9日